

東北大学

原子核工学科・量子エネルギー工学専攻

創立 50 周年記念誌

総 212ページ！
学科・専攻初の「本格的」記念誌刊行！！

学科・専攻の「過去・現在・未来」がこの一冊に！！



=これまでの全学位論文（卒論・修論・博論）の一覧を収録しています=

目次

1. 巻頭言

50 周年事業実行委員長・同窓会長＋専攻長

2. 祝辞

工学研究科長、サイクロセンター長、金研所長、多元研所長

3. 専攻の歴史

1) 年表

2) 講座の変遷

3) 歴任教職員一覧

4) 研究連携・協力の変遷および現状（金研・多元研・サイクロ・JAEA・NIFS）

5) カリキュラムの変遷

6) 専攻内の施設

RI 実験室、FNL、SCA、コバルト、液体金属、プラズマ、工場（機械・ガラス）

4. 寄稿

5. 写真で見る 50 年

1) 各研究室から

2) 大震災の被災状況と復旧状況

3) 50 周年記念式典（講演会、祝賀会）

6. 現状の専攻の年間スケジュール紹介

7. 卒業生の進路

8. 専攻の最近の活動とこれからの 50 年に向けた取り組み

1) 共生活動

2) 人材育成事業

3) 大震災後の専攻の活動

仙台近郊の放射線計測（空間線量、食品等）

除染プロジェクト

4) 六ヶ所分室について

5) 施設の整備状況

生活環境早期復旧技術研究センター

先進核融合炉工学総合実験棟

9. 座談会

10. 学位論文題目一覧

11. 編集後記

東北大学工学部に原子核工学科が設置されてから、平成 24 年 4 月で 50 年が経ちました。まず原子核工学専攻が昭和 33 年 4 月に設置され、その後、昭和 37 年に学科が設置されています。この 50 年の間に 3,200 余名の卒業生を輩出し、所属した教職員は現職も含めて 230 名以上です。

50 年の間には、人だけでなく学部・大学院教育のカリキュラム、講座（研究室）、施設にも数々の変遷がありました。当初、片平地区で既設の学科等のスペースを間借りして行われていた教育・研究が、昭和 40 年 10 月からは青葉山に移り、臨界未満実験装置室（SCA）・放射性同位元素実験室（RI 実験室）・高速中性子実験室（FNL）などが整備されていきました。現在ではコバルト 60 照射実験室が廃止され、建屋は「生活環境早期復旧技術研究センター」として生まれ変わっています。また、液体金属ミスト冷却実験室、高温プラズマ実験室は、機械工場とともに廃止され、「先進核融合炉工学総合実験棟」に統合しています。更に特筆すべきこととしては、2013 年 10 月に青森県六ヶ所村に本専攻の「分室」が開所したことが挙げられます。

本記念誌では、学科・専攻創立以来の「記録」と、そこに集った人たちの「思い出」、そして 3.11 大震災による福島第一原子力発電所事故後の状況を踏まえた「決意」を綴っております。最近の本学科・専攻の取り組みとしての共生活動・文部科学省人材育成事業・除染プロジェクトや青森県プロジェクト、加えて、若手教員と学生による座談会での、今後の本学科・専攻および原子力の行く末の率直な議論は、是非ご覧になっていただきたいと思います。どうぞ学生時代の思い出とともに、本学科・専攻の過去、現在、未来に思いを馳せていただければ幸甚でございます。



原子核工学科創立時の校舎に使われた
旧仙台高等工業専門学校講堂（片平）



原子核工学科建設風景（青葉山、1965 年）



六ヶ所村分室の外観（2013 年）



2013 年工明会運動会後の優勝記念パーティにて

【お問い合わせ先】

〒980 - 8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6 - 6 - 01 - 2

東北大学原子核工学科・量子エネルギー工学専攻 五十周年記念事業実行委員会

電話：022 - 795 - 7901

FAX：022 - 795 - 7902

E-mail：ryoushi50@qse.tohoku.ac.jp